

リスク管理

リスクマネジメントとは、①リスクを発見・認識し②その中から自らにとって重大なものを選び③必要に応じ対策を立案し④実行し⑤その効果を不断に検証しつつ⑥環境変化に応じて是正・改善を図っていく、という一連の作業を行うことである。

◇

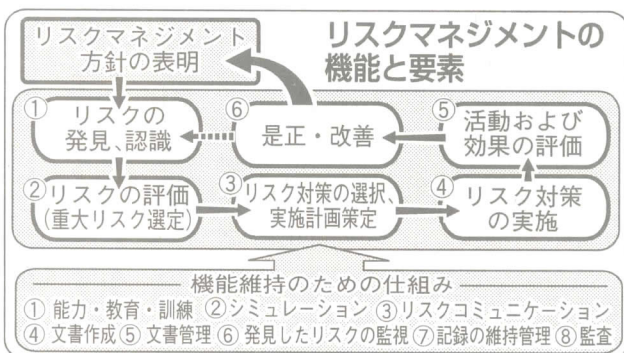
この際、難しくしかも非常に重要であるのが、最初の①リスクの発見・認識である。そもそも「隠しておけるならば隠しておきたい」出来れば自分は知りたくない、あるいは「起こってから考える」という風潮の中であえてリスクを探そうなどという発想そのものが育ち難い。

従って①が出来、発見・認識したリスクを組織内で共有できるようにな

リスクマネジメント

ABC

総論⑤



重大性を認識し対策を

れば、リスクマネジメントの半分以上は出来たと、言っても過言ではない。なぜなら、マネジメントの対象は既に把握しており、後は衆人環視の下それに対する正当な対応を

ルダー（顧客、周辺住民、株主、従業員、取引先など）への被害回避・軽減を図るといって、いわば企業が社会的存在として一定の責任を果たしていくために必要な活動の

昨今のCSR（企業の社会的責任）あるいはコ

着実に進めればよいからである。もう一つ重要なことは、②リスク評価の下、重大性の正しい認識を行うことである。リスクマネジメントは組織として継続を図るための手段の一つであるとともに、一方ではステークホルダーの基本的な方針といえ、企業がどのように社会との関わりを考えているか、社会における企業価値を考えているかに関わってくるものである。

さて、リスクマネジメントに関する総論は今回までとし、来週からはいよいよ個別のリスクに言及して、リスクマネジメントのいわば実践編に入る。（日本総合研究所）